

謹賀新年

発行者／京北商工会（広報委員会）  
〒601-0251 京都市右京区京北周山町  
TEL 075-852-0348 FAX 075-852-1173  
<https://keihoku.kyoto-fsci.or.jp>

ばいぶ

夢は  
未来を作る

Keihoku

### 年頭ごあいさつ



京北商工会 会長  
矢谷 仁史

明けましておめでとございます。  
二〇二二年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

さて、昨年も新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年となりました。ワクチン接種の効果もあり、年末には新規感染者も減少してまいりましたが、新型変異株の出現もあり、依然として予断を許さない状況が続いております。

また、商工業を取り巻く状況も再生にはなお時間を要するといわれております。  
京北地域においても、域内需要だけでは事業経営が難しく、今後のポストコロナやウィズコロナの時代にあつては、これまでと同様の事業モデル・価値観では厳しく、多様なニーズに応じた柔軟な発想が重要となつてきています。

一方、商工会の運営も限られた支援環境のもとで、会員の皆様の売上に寄与し、自立した事業経営を支援していくことが求められおり、会員の皆様に寄り添いながら地域経済活動を支えていくとともに、介護事業を通じて地域福祉の向上にも寄与してまいりたいと考えておりますので、倍旧のご支援をよろしくお願い申し上げます。

皆様方の今年一年のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ年頭の挨拶といたします。

# 青年部だより

## 年頭のあいさつ



新年あけましておめでとぅございませう。  
通常であれば顔写真を載せて頂くのですが、地域の皆様に笑顔になって頂きたく干支に僕の顔をつけたイラストを掲載するという行動にいたしました。

青年部では、「地域のため」「自社のため」「仲間のため」の三つのテーマをかかげ日々活動しております。コロナ禍となり様々な制約が多い中でも創意工夫し三つのテーマを如何に実現できるかを考え、行動して行く事が大切であると学びました。このような経験を部員同士で共有し自社の経営に活かせることが青年部の良さと僕は思っています。

本年もその良さを後輩に伝え青年部っていいよねと思ってもらう、また部員自身の成長・学びに繋がる青年部活動を行いたいと思っております。今後共々協力宜しくお願い致します。

京北商工会青年部 部長 中道知圭



## カブトムシドーム

恒例行事であるカブトムシドームは二年連続で中止となりましたが、カブトムシドームのコンセプトに沿って何が出来るのか沢山のアイデアを出し合った結果、カブトムシを育成するための最高の飼育ケースを作ろうという「カブトムシハウスプロジェクト」を実行することになりました。モノづくりのプロから飲食、農林業家まで様々な職種の部員が集い、木材を利用して飼育ケースを完成させました。完成した飼育ケースはカブトムシと共に京北内の保育園へ寄贈させて頂きました。本来のイベントとは違う形ではありますが、今年もカブトムシの生命を通して子供たちの笑顔を見ることができたことは大きな喜びです。

## 主張発表大会

二年ぶりに行われた主張発表大会に大島剛司さんが出場しました。「夢は繋がる」というテーマで京北でのゼロからの起業、現在までの経験を語られました。部長任期中には部員の夢を共有し、応援し合える部を作るため「経営成長部会」を立ち上げられ、経営のみならず、部員自身の成長へと繋がっていきました。大島さんが行った大きな行動が審査員の心を動かし、ブロック予選会では一位、京都府大会では二位を受賞されました。今後も「夢を繋げていく」ことを大事にして青年部は様々な活動を行っていきます。



またカブトムシドームに毎回参加されていた、昆虫博士の矢野くん（小学生）からおたよりを頂きました。そして矢野くんの熱心な昆虫研究を評し、青年部より表彰状を送らせて頂きました。



# 女性部だより

## 年頭のあいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
今年もコロナ禍の中、女性部活動が始まり、五月の総会が無事に終わった途端にコロナの広がりにより緊急事態宣言があり、行事の中止を余儀なくされました。

その中でも「笑顔でつなげる商工会女性部」をスローガンに掲げ、心と体の健康をテーマに色々な事業に取り組みようと話し合いました。

その中でオンライン会議を体験し、役員同士のリモートを体験しようと勉強会をしました。それを利用して「ヨガストレッチ」のミニセミナーをリモートで体験しました。

体も伸びて柔らかくなり、肩の凝りも楽になったと上々の評判でした。

わざわざ出かけてというとなかなか都合のつかない人も、オンラインなら気軽に参加できたように思います。この機会に今までなら敬遠していたことに挑戦できたことは一つ成長かなと思えました。

それから十二月には恒例の寄せ植えを部員の皆さんと楽しみました。それぞれ個性が表れていて毎年楽しい作品になっています。そのお花も年越しをして新しい花が咲くのをみるのも嬉しいものです。



今年もコロナ禍でいろいろな制約もあり、何かしらの影響があると思いますが、これからでもできることを部員の皆さんと一緒に活動し、また新規部員も少しずつでも増えていけば嬉しく思います。  
地域の皆様のご協力を得ながら、京北が発展できますようによりしくお願いします。

京北商工会女性部 部長 桑崎 千春

## おうちヨガ

Zoomで役員セミナー

「おうちヨガ」を開催しました。

夜に開催だったので

椅子に座りながら体操です。

参加した感想は

「あっちこちの筋が伸びました！」

「体がすっきりしました。」

「また開催してほしいです！」



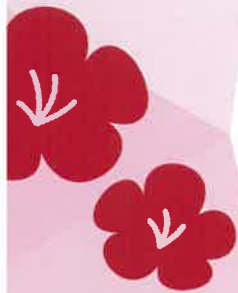
## 寄せ植え

今年も女性部の方みんな揃ってにぎやかな写真がとれました



## 笑顔で 幸福度UP!

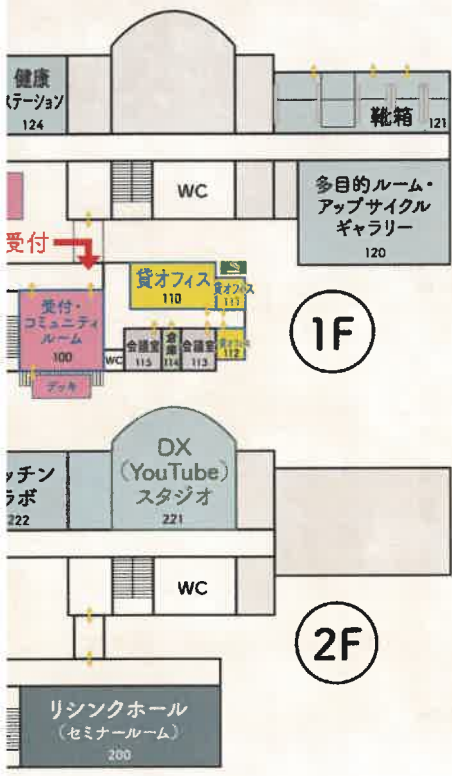
笑顔コミュニケーションと怒りの抑制（アンガーマネジメント）セミナーを受講しました!



# 突撃レポート!

## ことす ー新しい京北の拠点ー

京北第一小学校がことす（京都里山SDGsラボ）として生まれ変わった。しかし自分たちも含め、住民の中で「ことすとは何なのか」正しく理解している人はほとんどいないのではないのか。京北の人々にこの記事を読んでもらい興味を持ち、自分も利用したいという人が出てきてほしい。そこから新しいイベントや交流等が生まれて京北が活性化してほしい。そんなことを願い、私たち広報委員会は取材のためことすを訪れた。



- サテライトオフィス
- レンタルオフィス
- シェアオフィス
- コワーキングスペース
- レンタル会議室
- リシンクホール
- クリエイティブエリア
- 未開放

### コンセプト

ことすとは、「ことすをおこす・ことをなす」という言葉が由来になっている。京北内外の人たちがイベントや交流をしたり、創作活動によって地域を盛り上げる新しい拠点となるために生まれた施設だ。そのため会議やテレワーク、セミナーなどが行える「ビジネスのための空間」、木工やクッキング等のものづくり、動画制作や発信、音楽イベント等ができる「つくり出す空間」、この二つが融合した施設となっており、これらを組み合わせることで地域を盛り上げていくことをコンセプトにしている。

### ことすでできること

中央の館内マップはカテゴリーごとに色分けされている。シェアオフィスやコワーキングスペースでは、遠く離れた街中でもテレワークで誰とでも繋がることができ、青色のクリエイティブエリアでは木工を行うための工具が完備された部屋などがある。それらの設備を京北の住民であれば今期は無料で利用することが可能だ。様々なイベントも開催されることもできる。企画する側になることもできる。

利用方法はそれぞれだろう。実際に青年部と女性部が施設を利用し、どんな使い方ができるかを模索してみた。



# 女性部体験レポート

ひかり学級の教室は「受付・コミュニティルーム」になりました。こちらの部屋では主にオンライン会議や談笑する場として使えます。木のぬくもりが感じられるとても心地のよい空間です。和やかな雰囲気の中で打合せを進めることができます。静かにテレワークしたい方向きに別部屋で「サイレントルーム」があります。また数人でゆっくり話せる「ミーティングルーム」もあります。空調の設備やインターネットも完備されているのでいつ訪れても快適な環境で仕事をする事ができます。椅子もとっても座りやすいですよ！ポイントカードも発行されていて二十回利用すると素敵なエコバックがもらえます！

次年度の女性部総会の会場としてお借りする予定です。



電子ホワイトボード  
パソコンにつないだらすぐに使えて画面共有できます。



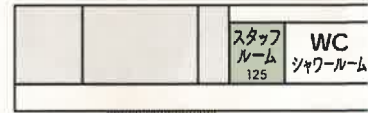
セルフ式のコーヒーもあります。



受付・コミュニティルーム



受付・コミュニティルーム窓側1人席



## 青年部が提案する活用方法 「DXスタジオで オンライン商談会」

動画製作やライブ配信ができる設備を活用し世界中の人たちと繋がりが京北の魅力やPRする。京北で採れたお野菜などの特産品や地元で根ざしたお店、企業、京北の自然や文化ならではのアクティビティ、サービなどなど。映像で商品見ながら会話できるので、欲しいと思ったお客さんとすぐに商談も始められる。会社や商品だけでなく、歴史、文化、人々の魅力も一緒に発信していきたい。



## ことすの目指すビジョン

取材の最後に福元宏徳館長は「何よりもまずは京北を始めとする皆さんに利用してほしい」とおっしゃった。そして「継続されていくことで、京北の新しい拠点となり、ゆくゆくは京北全体での取り組みをしたい。それを世界に向けて発信する。そして京北以外の人たちがこの場を訪れて、そこからお店やスポットに行ってもらい京北のことを知ってもらおう。そうすれば移住や観光だけでなく「関係人口」が増えていくのではないかと。そこからまた新しい交流や盛り上がりが増えていく。それらを続けていきSDGsにつながることを、ことすの目指すビジョンであると。

このような理想を目指しことすは京北に生まれた。この場所は地域を盛り上げ、より良い未来をつくる可能性を秘めていると感じた。その可能性を育てていくことは京北に住むみんなが力を合わせてこそ実現できるのだ。

- ▶ 営業時間  
9:00 ~ 17:00 (最終受付 16:00)
- ▶ 休業日  
土日祝・年末年始等  
(イベント等の場合応相談)
- ▶ TEL  
075-748-1986
- ▶ メール  
kyoto.satoyama1@gmail.com
- ▶ 入館料  
京北住民 / 無料

※上記料金は2022年3月末までの期間限定  
※上記料金で全エリア利用可能。  
但しセミナースペースの貸し切りや木工スペースでの機材の使用等、追加料金がかかる場合もあり。



・ 事業所訪問 ・

手作り革製品のお店  
**Loop Garage**  
革工房 Taku  
伊藤 拓さん



## お洒落な工房兼 SHOP が OPEN

お洒落な革製品の工房兼ショップが京北周山の入り口にあるコンビニの右隣りにオープンした。伊藤拓さんが開いた Loop Garage (ループ ガレージ) である。マニアックなバイクが並ぶカッコいい佇まいのお店の正面ドアを潜ると美術作品の個展でもされているのかと思うような静謐な異空間に包まれて個性的な革製品達が鎮座していた。京北地域の鹿の角や革を干して鞣して原料から作品化する手法にも物作りへの情熱を感じると共に、実際に作品達を拝見して独特のフォルムを生み出す

技術とセンスで芸術的な作品が作り出されていると実感した。

奥の工房から人懐っこそうな笑顔の伊藤さんが「いらっしゃいませ、こんにちは!」と出迎えてくれた。昨年8月8日に移転オープンし、新たな目標を持って屋号を "Loop Garage" とした。「周山の [周] をゆるく解釈して Loop、工房もゆるく解釈して Garage です。看板はまだ出来ませんが、笑」とにこやかに話された。

その屋号に刻まれたコンセプトへの第一歩として彼はコロナ禍に苦しむ地域の農家さんから野菜を預かり店頭販売を始めた。現在は土日曜日のみの店頭マルシェだが伊藤さんの人柄を物語る店構えの可愛いアクセントになっている。



## 伊藤さんから京北の皆様へ

初めまして。周山の国道沿いに移転オープンしました革工房 Taku の伊藤拓と申します。以前は神奈川県に住んでいましたが、子育てを機に夫婦の実家の真ん中に位置する京都へ移住し10年になります。ご縁あって今回の物件でお店を出来る事になりました。この仕事を始めて16年目になりますが、仕事の少ない時期は地域の仕事でも大変お世話になりました。店舗作りに至っても4年前の台風で壊れた箇所を修復したり、様々な場面で尽力して頂いた地域の職人さん達、商工会、並びに差し入れを頂きました地域の方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

業務の方はオリジナルの財布やバッグ類、ベルトや小物類の販売の他、オーダーメイドによる一点モノの製作をしております。捨てられない革製品からのリメイクや修理も物によって承っております。革製品の手入れ方法も含め、気軽にご相談下さい。



k-taku.com